

「いやなら、やめたらいい」 2012年第47回全国大会 実行委員 仙敷正俊

表題の言葉「いやなら、やめたらいい」は、前連盟理事長、田口昭典牧師（金沢教会）の発言である。2011年1月、中部地方連合壮年会 総会・交流会の席でのことである。2010年第45回札幌大会において、第47回大会が中部地方連合で開催されることが決定された。2000年の岐阜羽島の大会を中部連合が主催して10年が経過してはいたが、少々早い開催決定に連合壮年会の役員会の中には戸惑いがあった。そのような中、2011年1月、連合壮年会、総会・交流会は重苦しい雰囲気の中で始まった。

そんな折、先ほどの「いやなら、やめたらいい」という爆弾発言があった。『全国大会は何のためにやるのか。こんな状態で引き受けてやっても、意味がない。やるのなら、連合の壮年だけでなく、連合の諸教会も元気にされ、全国から参加する壮年会員一人ひとりも、大会に出席してよかったという大会にしなければ意味がない。』そこに集まった連合の壮年達は、田口牧師からこのように一喝され、目を覚まさせられた。今までの、重苦しい雰囲気が一転して、さわやかな風が吹き抜けたような雰囲気へと変わった。こうして、今回の第47回全国大会の準備は始まった。

そのときから大会当日までの約一年半の間に16回の実行委員会を重ねて準備をしてきた。前半の実行委員会では、どのような大会にしたいのか。大会の基本的な柱についての意見交換をした。行きつ戻りつしながら喧々囂々意見を書き交わせた。そのとき、実行委員会のメンバーの頭の中にいつも焼きついてきた言葉が「いやなら、やめたらいい」また「連合の諸教会が元気になる大会にしよう」という田口牧師の言葉であった。結局、田口牧師は言いたしっぺで大会の講師を引き受けてくださることになり、喜んでその責を果たして下さった。

今回の全国大会の目玉の一つは、神学部から6名の神学生を招いたこと。しかもその全員に中部連合の諸教会での奉仕もお願ひしたこと。また、もう一つは神学部から小林洋一（旧約）青野太朝（新約）両先生をお招きし、これまでの神学教育を振り返り今後のあり方についても提言をしていただいたことであった。両先生には、夜遅くまで場所を移しての「懇談会」にも出席いただき感謝であった。多くの質疑や意見交換によって、西南神学部、東京バプテスト、九州バプテスト神学校のそれぞれの課題点も少しずつ明らかになり、今後の課題も示された大会であった。（増6頁に写真掲載）

2012年度全国壮年大会連合総会 審議報告<速報>

	【議案】審議詳細については10月発行の「第47回全国壮年大会報告書」を参照願います。	審議結果
議案 1	2012・2013 年度全国壮年大会連合役員の内	承認
議案 2	2011 年度全国壮年大会連合活動報告の内（含神学校献金推進に関わる懸念事項について）	承認
議案 3	2011 年度全国壮年大会連合奨学金委員会活動報告の内	承認
議案 4	2011 年度全国壮年大会連合会計決算報告、監査報告の内（一般会計決算報告・奨学金会計決算報告・監査報告）	承認
議案 5	2013 年度神学校献金目標額の件	承認
議案 6	2012-2013 年度全国壮年大会連合活動計画案の内（ワーキンググループ答申を踏まえて）	承認
議案 7	2012-2013 年度全国壮年大会連合奨学金委員会活動計画案の内	承認
議案 8	2012 年度全国壮年大会連合一般会計修正予算案及び2013 年度全国壮年大会連合一般会計予算案の内	承認
議案 9	2012 年度全国壮年大会連合奨学金会計修正予算案及び2013 年度全国壮年大会連合奨学金会計予算案の内	承認
議案 10	連立等神学校奨学金制度創設の内	継続審議
議案 11	全国壮年大会連合規約 細則改定に関する件（選挙管理委員会関連）	議題取下げ
議案 12	全国壮年大会連合事務局職員規程に関する件（職員就業内容等変更）	議題取下げ
議案 13	奨学金委員長選挙の内	選挙実施・承認
議案 14	全国壮年大会連合監査選挙の内	選挙実施・承認
議案 15	2014 年度、2015 年度 全国壮年大会開催担当地方連合の内	承認
議案 16	2013 年度総会議長の件 <議案 11 が承認された場合>	議題取下げ

日本バプテスト連盟全国壮年大会連合 〒336-0017 さいたま市南区南浦和1-2-4
 事務局執務時間：月、水、金 10:00～16:00
 ☎・fax：048-886-7533 http://www.sonen.net sonen@bapren.jp
 郵便振替 00150-7-669605 「日本バプテスト連盟 全国壮年大会連合事務局」



日本バプテスト連盟全国壮年大会連合
 発行人 大城戸一彦
 編集人 井伊 肇
 Topics password→sorengo



全ての人に開かれている「東京バプテスト神学校」

東京バプテスト神学校 校長 松村誠一

9月30日の日曜日、「東京バプテスト神学校デー」が開催されました。当日は日本列島縦断の大型台風が関東地方に接近という予報が出ており、鉄道の運休、間引き運転など足の確保が危ぶまれる中、70名近くの兄弟姉妹が会場の連盟事務所に集まりました。この神学校デーは3地方連合の教会員を始め多くの方々に神学校をより身近に感じてもらい、神学校の果たすべき役割を共に考え、共に担ってもらうために企画されました。

プログラムは午後3時30分から始まり、1.講演会、2.フォーラム「インターネット時代の神学校のあり方」、3.賛美タイム、そして、4.懇親会と盛り沢山でした。

講演会は「カール・バルトはなぜ教会にこだわったのか」の題で西南学院大学神学部教授・天野 有先生がお話し下さいました。天野先生はカール・バルトが描く創造から再臨までの神の出来事の鳥瞰を提示して下さいました。創造から受肉、受肉から復活、昇天から再臨、それぞれの歴史の中で繰り返し、イエス・キリストの出来事が起こっている、そして今の時代にもまた、イエス・キリストは、この方を信じ愛し希望する群れ、すなわち教会において、なによりも生きて働いておられるとお話し下さいました。「イエス・キリストはご自身の預言者たちと使徒たちの証言において（すなわち旧・新約聖書において）生きておられます」という、そのとき紹介されたカール・バルトの時代状況に向けての講演(1938年12月)の言葉が心に強く響いてきました。

この講演を聞き、私は、わたしたちが教会の交わりの中で聖書を読むときに、聖書は単なる書物ではなく、神の言葉となって私たちに迫り、私たちは、その迫りの中で、信仰を頂き、キリスト者として生きていくことが赦されているということを思わされました。

「私たちの神学校は教会に仕える神学校でありたいと願っています」と申し上げたら天野先生は、「いいえ、教会に仕えるのではなく、教会における他の様々な奉仕と同様、教会の主——そして全世界の救い主——に仕えるのです」と修正して下さいました。

改めて東京バプテスト神学校は「教会の主——そして全世界の救い主——に仕える神学校」として歩み続けていきたいと願っております。

フォーラム「インターネット時代の神学校のあり方」では神学校のライブ授業*のシステムを導入した小牧由香姉(常盤台教会員)が発題して下さいました。

小牧姉は2007年から東京バプテスト神学校で学んでおり、この学びがキリスト者にとってとても大切であり、もっと多くの方と学びを分かち合いたいと思ったそうです。そして学びを必要と感じていながら、神学校から遠かったり、夜間だから通学できない、などの障害を乗り越えて学ぶシステムを整えて下さいました。そのシステムとは次の通りです。

- 1.インターネットによる授業のビデオ配信、
- 2.ライブによる授業参加、
- 3.授業をCDにして受講者に届けて受講。

この3システムを利用し、多様なライフスタイルに合わせながらどなたでもどこでも学ぶことが可能となったわけです。これは画期的なことだと思います。

しかしながら、「教会の主仕える神学校」での神学の学びは歴史的事実、科学的事実や客観的事実を超えて今も生きて働いておられるイエス・キリストに出会い、イエス・キリストに学ぶのですから、それには全人格的な交わりを通しての学びが大切となります。インターネットによっての学びに加えて、教師そしてそこで学ぶ仲間が直接会って、話して、触れて、感じて学ぶプログラム、機会、場所などを設けていきたいと願っています。

日本の人口の1%、いや実数はもっと低いでしょう、そのクリスチャン人口を打破するのは、一人一人のキリスト者が、自らの信仰を省み、吟味し、救いとは、イエス・キリストとは、永遠の命とは、などについて隣人に話し、福音を宣べ伝えることにかかっていると云えましょう。そのために、全ての人に開かれている東京バプテスト神学校での学びを始めましょう。

- * ライブ授業等については東京バプテスト神学校ホームページ (http://tbts.jp/) をご覧ください。
- * 紙面の都合で在校生名簿を増5頁に掲載しています。学生の学びのためにお祈りください。

全員参加！！ 平凡だけど地道な活動で安定的にサポート！！

西関東地方連合 神学校献金推進委員 須河内 彰



西関東地方連合は長野、山梨、静岡の3県にまたがる9つの教会で構成されています。北はアルプスの山々、南は静岡と山梨の県境にそびえる日本一の山、富士山、更に南には3大砂丘のひとつ、遠州灘の中田島砂丘、そして天城山荘のある伊豆半島と、観光やレジャーでも多くの人々で賑わう自然美豊かな所です。

東西は新東名高速道路が引佐一御殿場間で今年5月に開通し、南北は三遠南信道路が工事中で、それらが開通すると更に行き来が便利になります。(現在は松本ー浜松で三時間半かかります)

さて、2011年度全国神学校献金報告によると西関東全体では対前年2.87%増と、高齢化や年金受給者が多くなって、経済情勢も大変厳しい中にも関わらず、着実かつ安定的に献げられています。ハレルヤ！ 感謝します！ 現在会員数一人当たりの額では全国でも三本の指に入る優秀な実績をキープしている連合と言えるでしょう。そこで、今回は具体的な数字を挙げて西関東でのトップ2の献金状況に触れ、少しでも全国諸教会のご参考になればと思います。

先ず、No.1の富士吉田教会では昼食の売上げ利益から50,000円、神学校週間席上献金で100,000円強、月約献金袋併用の神学校指定フリー献金で14,000円弱、合計163,750円が献げられました。次にNo.2の私の属する浜松教会では、壮年会費600円/月×12ヶ月=7,200円/名を納入して頂き、その内の400円/月×12ヶ月=4,800円、×15名で72,000円と神学校週間の席上献金等55,000円、竹筒献金その他16,950円、合計143,950円を神学校献金として献げることが出来ました。(全国壮年会連合会費は壮年会費より125円/月×12ヶ月=1,500円/名)

以上が西関東トップ2の具体例ですが、浜松ではこれからも、教会財政の基盤である月約献金同様、①確実な壮年会費(約90%が神学校献金と全国壮年会連合会費に充当)納入を最重要視しながら、②神学校週間のプロジェクターを使っでの特別アピールによる集中的席上献金 ③年間を通しての竹筒設置・指定フリー献金 等により平凡ではありますが神学校献金の今のレベルがキープされるように、そして、その事が不返転の決意で学んでおられる神学生を経済的側面からサポートすると共に、神学校への門を広げる事へと繋がることを願い、また、祈りつつ、更なる活動・推進をしていきたいと思ひます。

「壮年大会で触れた熱い思い」

西南学院大学大学院神学研究科修士2年 石橋誠一
(推薦教会：北山バプテスト教会)



昨年、全国壮年大会に初めて参加させていただきました。天城山荘に行ったのも全国小羊大会以来のことで、とても懐かしく嬉しかったのですが、それ以上に嬉しかったのは、伝道者養成に対する全国の壮年の皆さんの熱い思いに触れたことでした。私は、西南学院に来る前に別の大学院の神学研究科で学んでいたの、西南学院でも学部からの4年間在籍してじっくり準備しなさいとのお勧めもあったものの、なるべく早く牧会の現場に出ることを願い、大学院の2年間だけ在籍することにしましたという経緯があります。大学院を修了するために必要な単位を揃えるだけならそれほど授業数は多くならないのですが、せっかく西南学院で学ぶ機会が与えられたので、1年目の昨年は、単位にならない学部の授業もたくさん受講して、アルバイトをする暇もないほどでした。ですので、いくら破格の家賃で築10年の恵まれた家族寮に住まわせてもらっているとはいえ、一家4人が生活していくためには奨学金は不可欠でした。その奨学金が、私の入学する少し前に増額されたということも、大変にありがたいことでした。奨学金がなければ献身しなかったということではもちろんないのですが、奨学金があったからこそ今の神学生としての学びと生活がゆるされているということは確かです。そのような奨学金の背後に、全国の壮年の皆さんの熱い思いがあるということを肌で感じられたことが、全国壮年大会に参加して一番嬉しかったことでした。

西南学院での学びも、いよいよ残すところ半年足らずとなりました。この原稿を書いているのは10月の初めてですが、今月中旬には修士論文の中間発表会も控えています。かつてご著書を通して聖書学を志すきっかけを与えてくださった青野先生から直接ご指導いただきながら、ルカ福音書16章にある「不正な管理人のたとえ」をどう理解するかというテーマで修士論文を作成しています。このたとえを語ることでイエス様もこの「不正な管理人」をほめているのだろうか、という疑問を解決するべく、頭を悩ませているところです。

研修教会は、今年度は東八幡教会にお世話になっています。みことばに生きる、隣人に仕える、などの5つのミッションを掲げ、それに真面目に楽しく取り組んでいる教会の一員になることで、多くのことを教えられ、鍛えられています。皆様のお祈りとお支えとに心から感謝いたします。

『愛を伝え…、られない』

松山西キリスト教会 立田卓也



自身の活動を振り返る中で、今また改めて心に突き刺さる出来事を思い出しています。とある児童施設(養護施設)での公演後に見た、施設内に飾られていた聖画。手を差し伸べるイエスとそこに集まる子供達。一見心温まる絵ですが、よく見ると一人の子どもの手には釘が刺さっている。また他の子どもにはその体のどこかに茨が巻かれていたのです。この意味を思った時、その日の公演に満足(しよう)していた私を打ち砕きました。イエスが釘や茨を子供達に背負わせるはずはない。私たち大人が背負わせたのか、と。

様々な大人の事情で、その人生の始まりに、生き辛さを抱えさせられてしまう子供が目の前に居る。誰もその十字架を消してくれない。それができるのは誰だろうイエス様。

一方、私という存在は何か？ 子供達に本当に必要とするものを提供できているのか。またそのようなものをちゃんと創り出せているのか。所詮、罪人による奉仕。私は、その自分の生きていく中であっても、子供のための人形劇であっても、取り除くどころか、誰かに十字架を負わせてしまうかもしれない罪人でしかない。“愛を伝える”、このテーマの重さに、当初抱いていた憧れは、今は創作の難しさと相まって、畏れです。十字架を背負ってしまった人をあなたの愛によってお助け下さい、と祈るほかなかったのです。(そしてこの事は、現在の福島とその子供達にも通じるように思えてなりません)

とは言い、私たちは、許されて生きる者として、今の自分を差し出して立ち続けるしかない、その先に希望を見ます。

<立田さんの連絡先> 人形げきや ぶか
〒791-2204 愛媛県伊予郡砥部町高市1422 TEL/089-969-2339 携帯/090-8282-6077
e-mail/pukarin09@ezweb.ne.jp
夫婦+娘の三人四脚(もうすぐ四人五脚!)で、誰でも楽しんでもらえる人形劇を目指して頑張ってます! 夢は、人形劇をまだ観たことない人に、生の笑いを届ける事(愛媛県内の保育園・幼稚園を中心に年間約90公演)

日本バプテスト前橋教会太田伝道所壮年会(北関東地方連合)の活動紹介 <取材>

小雨の降る9月23日(日)午後、群馬県太田市数家にある太田キリスト教会を訪問しました。15時半からの主日礼拝に出席し、礼拝後の報告の時間に訪問した趣旨を説明しました。礼拝後は壮年も女性会の方々も、近づいたバザーの準備の作業で忙しくされていましたが、お茶を飲みながら奥田牧師とお話をさせて頂いた後、壮年会メンバー6名全員が集まって下さり、いつもここで例会をやっているというお部屋でインタビューに応じて下さいました。(写真参照)

最新の教勢報告では壮年5名となっていますが、最近浦和教会から転会された長尾さんを含め6名がメンバーです。毎月第2主日に例会が開かれており、いつも全員集合。現在の会長は小林政彦さんで、小林さんは教会の財務執事も担当されています。長島正彦さんが総務執事、石井努さんが伝道執事と3名の執事全員を壮年が担っており、早田信雄さん、広越俊昭さんは前の伝道執事とのことで、壮年会活動だけでなく教会のさまざまな奉仕を壮年が元気に担っておられるという感じを受けました。

石井さんは、現在北関東地方連合壮年会の会長も引き受けておられ、連合での活動にも皆さんで参加されています。

太田教会の特徴の一つとして男性と女性の比率がほぼ1:1とバランスがとれていて、神学校献金と世界祈禱週間献金を、お互いに協調しながらサポートし合って推進していることが挙げられるとの → α



α → 説明がありました。主日礼拝出席が約20名、祈禱会出席が約10名で男女比は仲良く1:1です。現在会員数に占める祈禱会出席者の比率が約65%あり、これらの良き伝統は母教会である前橋教会から引き継がれたもので大事にされています。神学校週間には、それまでに神学校や神学生の最新のデータを → §

§ → あちこちから集め、牧師や壮年会長がわかりやすくアピールしているとのこと。北関東地方連合も東京バプテスト神学校を支えているので、集まった献金の一部は東バプに献げられているようです。

昨年3・11以降、石井さんをはじめとして東北の被災地を支援する活動が展開されています。教会のこととして送り出され、現地で得てきた情報はすばやく皆さんに共有されて、次の支援へとつながっています。伝道所としてスタートして4年目という非常に若い教会ですが、皆さんとても元気です。読者の皆さんも是非一度訪問されることをお勧めします。

~9月23日取材、取材記者：豊永義典(川崎教会)

